

The Watershed of Japan is a Very Short Distance From the Sea Level Necessitating Erosion Protection. the Following Photographs Show the Methods Employed in Ancient Times And Still Being Used in Preventing the Washing Away of the Banks of the Rivers During the Spring Floods.

稲荷川砂防工事

内務省技師 蒲 葦

稲荷川は鬼怒川支流大谷川の左支で、日光町の北端に聳ゆる赤雉山及女峰山（標高二、四六三米）を水源とし、神橋の下流三百米の地點で大谷川に注ぐ急流河川である。本川は明治二十五年の大水害以來急激に荒廢の度を増し、不良なる地質は饒多なる降水量と相俟て浸蝕作用を逞ふし慘憺たる光景を呈するに至つた、之が爲め日光町は常に危険に暴露さるゝ状態にあつた、而して其の砂防は一日も猶豫するここが出来ないのみならず技術上困難の問題である爲、内務省で直轄施行するこゝなり大正七年東京土木出張所が直接施工の任に當るに至つた。

工事着手以來本年度迄八年度内に起工された工事は堰堤工事十四個所、床固工事三個所で、堰堤中の最高は第十三堰堤の二十二米、最大は日向堰堤の高十五米長六十米築立々積四千二百四十米工費八萬參千圓で昨年迄の總支拂工費は約參拾五萬圓である。

稲荷川第十三堰堤

第十三堰堤は川口から四千七百六十米の箇所に築設された稲荷川の最高堰堤で高二十二米長六十米築立々積二千八百立方米工費約五萬圓である。堰堤箇所海拔は約千米で、最も後方に見ゆるは赤雉山で、白いのは其の崩壊である。貯砂量約五萬立方米。



(1) 稲荷川第十三堰堤
(1) #13 Dam on Inari River, 3,250 ft. Above Sea Level. Length, 195 ft. Height, 71½ "

稲荷川第一床固工事

第一床固は稲荷川口に施設せられ右岸の護岸を保護するを主目的とする。施工前水流は右岸に沿ひ流れ、川心には砂礫及轉石高く堆積し、川心高さ水面との高低差は約七米で、出水毎に護岸根固用の水制は破損を受け其の修繕に追はるゝ状態にあつた。然るに施工の結果右岸には水面から床固袖天端迄約五米高に砂礫を

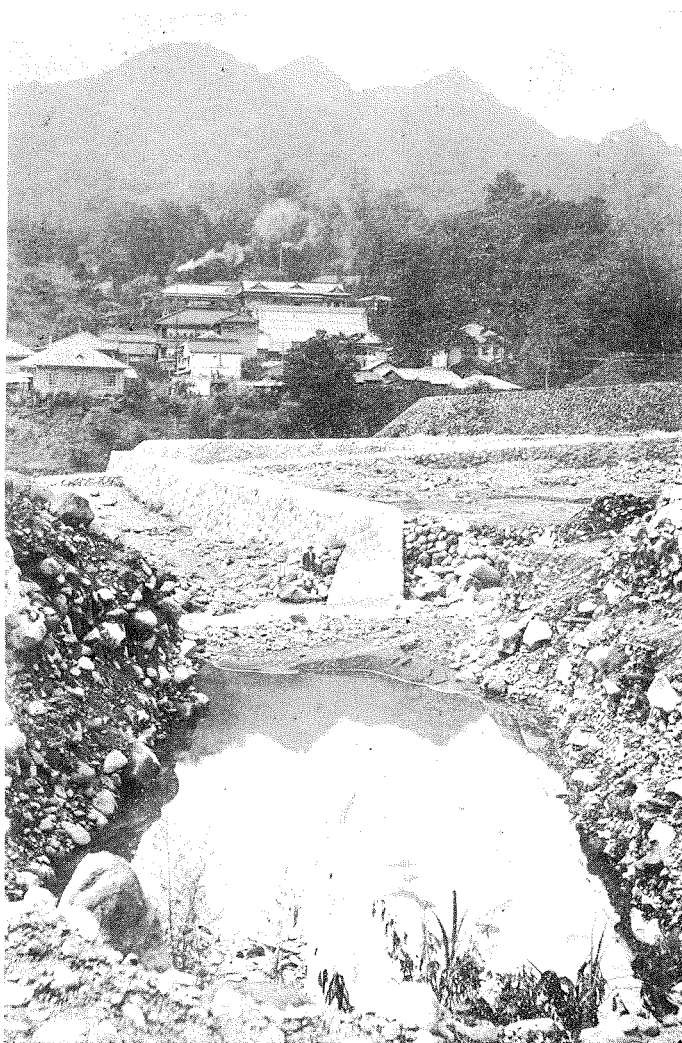
堆積し、川心に當る約六米高の堆積砂礫と轉石は出水の勢力により一掃せられ、水流は法線内を流るゝに至り、護岸は全く安全となつた。床固工は高二米（袖部に於ては六米）長九十米で中央に下幅三十八米深四米の水通を備ふ。右袖

部は長四十八米で上に向ひ二十度の角度をなし水制の役目を果す。工費一萬六千圓。

*

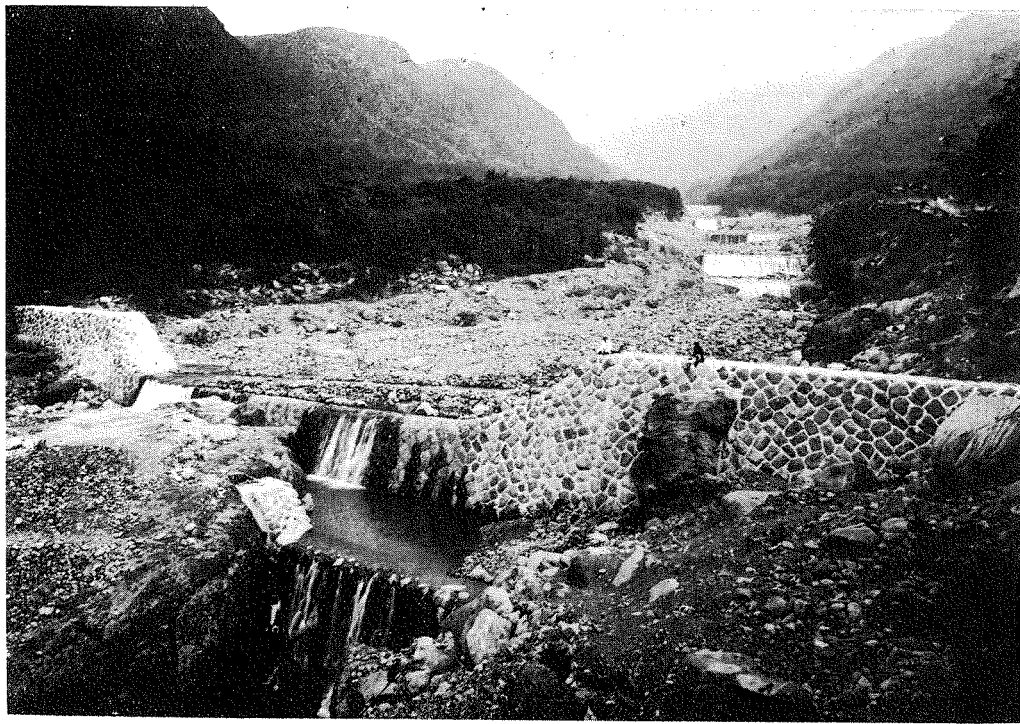
寫眞の中央水通部天端は一米乃至一米半砂礫にて被はる。後方に見ゆる人家は日光町小西旅館其他

(2) Inari River near Nikko Erosion Protection Dam.
Length, 300 ft. Height, 6½ ft.
Waterway at Center, 100 ft.



(2) 稻荷川第一床固工事

稻荷川砂防堰堤



(3) Another Erosion Dam on Inari River, Slope, 1 to 10.

稻荷川砂防堰堤

*

下流より第四副、第四、第二副第二、第三、第五、第八、第九の各堰堤。第四堰堤は川口から三千百米、第九堰堤は同三千六百四十米に位する。第四堰堤左袖部に突

出する大轉石は大正八年の大出水に流出したもので其の容積六十立方方に餘る。工事區域の川床勾配は十分の一で従來は大轉石が盛に流出したが、今日では其の流出は全く止み、極めて靜穩の状態を呈するに至つた。